

うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画

～ 公民連携による地域の経済活性化 ～

【概要版】

令和5年3月
うるま市

まちづくり推進計画について

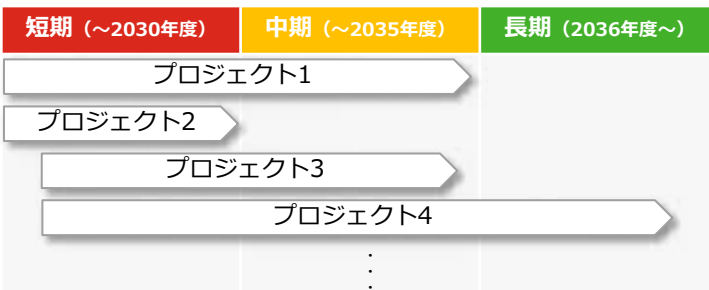
◆ 計画策定の目的

勝連・与那城地域まちづくり推進計画では「公民連携による地域の経済活性化」に主眼を置き、地域の将来像やまちづくりの基本方針を明確化するとともに、既存の計画・事業を整理し、必要に応じて新たな取組も加えてまちづくりの推進に資する複数のプロジェクトとして取りまとめます。そして、プロジェクトの実現方策や優先順位を示すことで、住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、実効性のあるまちづくりに繋げることを目的とします。

◆ 対象期間

本計画は2035年度（令和17年度）までを対象期間とします。対象期間中は本計画に定めるまちづくりの推進に向けた各プロジェクトを推進します。各プロジェクトは短期（～2030年度（令和12年度））、中期（～2035年度（令和17年度））、長期（2036年度（令和18年度）～）として取組を整理し、必要に応じて長期（2036年度（令和18年度）～）の取組も本計画に位置づけるものとします。

計画期間と各プロジェクトの取組期間（イメージ）



◆ 計画の位置づけ

本計画は、市の上位計画に基づく計画として策定します。また、市や沖縄県の関連計画との連携や整合を図りつつ、必要に応じて新たな取組も加え、地域単位でのまちづくりの指針となる計画とします。

まちづくり推進計画と上位関連計画との関係性



◆ 計画検討にあたり留意すべき視点

(1) うるま市全体の中での役割

うるま市は、本計画の対象である勝連・与那城地域のほか、市の上位計画で中心拠点と位置づけられている具志川地域や、副拠点と位置づけられている石川地域から構成されています。それぞれの地域の特色を生かしつつ相互に補完し合い、うるま市全体として最適なまちづくりを推進する視点を持って検討します。

(2) 持続可能なまちづくり

うるま市では、将来にわたって充実した市民サービスの提供を可能とするため、公共施設の集約化・複合化等の公共施設マネジメントを推進しています。公民連携によるまちづくりを推進するうえでは、財政負担を伴う新たな公共施設やインフラ等の整備が生じることにも想定されますが、これまで推進してきた公共施設マネジメントの取組との整合性を考慮し、過大な投資や施設間での役割の重複等が生じないよう留意し検討します。

(3) 防災や安全・安心

まちづくりを推進する中では、新たに多くの人々が訪れる場所や、民間事業者等が大きな投資を行う場所等が生じることが想定されます。災害発生時にも来訪者や市民、民間事業者等の貴重な命や財産を守る視点を持つとともに、環境の変化に伴い地域住民等の安全・安心な生活が脅かされることのないよう留意し検討します。

◆ 対象区域

勝連・与那城地域は、本市の東部及び島しょ部から構成されており、面積は約32.63km²、人口は約2.4万人となっています。

うるま市及び勝連・与那城地域の位置・範囲



うるま市と勝連・与那城地域

うるま市は、平成17年4月1日に具志川市・石川市・勝連町・与那城町の4市町が合併して誕生しました。市名の「うるま」は“サンゴの島”を意味する沖縄の美称です。

勝連・与那城地域は、うるま市の南東に位置し、勝連半島と有人・無人の島々から成り立っています。勝連半島と5つの島（藪地島、平安座島、宮城島、伊計島、浜比嘉島）は海中道路や橋によって結ばれています。那覇空港からの所要時間は車で50分ほどであり、沖縄自動車道を経由し沖縄北ICよりアクセスが可能です。

金武湾と中城湾の両湾に面した美しい海岸・島々や、斜面地や丘陵地が多く起伏に富んだ風景がみられます。世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つである勝連城跡や、絶景スポットとして有名な海中道路には、多くの観光客が訪れています。また、沖縄最古の伝統を守る平敷屋エイサーや、グスク時代をモチーフにした地元中高生による現代版組踊「肝高の阿麻和利」が地域に根付き、伝統が生活と密着しています。

世界遺産勝連城跡



海中道路



現代版組踊「肝高の阿麻和利」



写真（左・中央）出所：うるまいろ（一般社団法人うるま市観光物産協会 公式ウェブサイト）

勝連・与那城地域の特長と課題

各種資料の分析に加え、地域住民へのアンケートや関係者（各種団体、民間事業者、市役所関係課等）へのヒアリングを実施した結果から、地域の特長や課題を次のとおり整理しました。

◆ 特長・強み

① 豊かな自然環境や美しい景観

勝連・与那城地域の豊かな自然環境や美しい景観を目にすることができ、多くの地域住民や関係者から高く評価されています。こうした自然や環境を改めて勝連・与那城地域の貴重な地域資源ととらえ、地域の魅力向上や観光誘客に一層生かしていくとともに、将来にわたって維持・継承していくことが重要です。

② 歴史・文化等のソフトパワー

世界遺産勝連城跡や、地域における歴史上の人物を題材にした地元の中高生による現代版組踊「肝高の阿麻和利」等、勝連・与那城地域ならではの歴史や文化が貴重な地域資源になっており、住民の地域に対する愛着の醸成にもつながっています。今後のまちづくりでは、これら地域資源を更に磨き上げ、観光客や市外の住民・事業者等にもその存在や魅力が伝わるよう取り組んでいくことが必要です。

③ 個性豊かな島しょの存在

平安座島、浜比嘉島、宮城島、伊計島、津堅島の5島は、それぞれ歴史・文化・景観・産業等に特徴を有しています。今後は、島しょ部の地域住民の生活環境や文化、慣習等への配慮や尊重を前提としながら、魅力をより多くの人に知ってもらい、体感してもらうための取組を進めていくことが、地域の持続的な発展にとって重要です。

◆ 課題・弱み

① 面としての魅力づくり

地域資源が各所に点在しており、それらの間をつなぐ取組も不十分なため、観光地としての雰囲気欠けという意見があります。また、飲食店や宿泊施設の不足等により、観光客の来訪による地域への波及効果が不十分といった意見もあります。誘客や滞在、消費を生み出す核となる拠点を創出するとともに、それらの間をハード・ソフト両面でつなげる取組を推進し、面的に魅力ある地域を目指す必要があります。

② 他地域との差別化と効果的な魅力発信

勝連・与那城地域には魅力的な地域資源が多数存在する一方で、それらが十分に認知されていないという課題が浮かび上がっています。また、沖縄における観光では那覇市や西海岸のリゾートエリアが優位な状況が続いているという見解もあります。他地域との差別化を意識しながら、勝連・与那城地域ならではの魅力をつくり上げるとともに、その魅力を訴求すべきターゲットに向けた効果的な情報発信が重要です。

③ 地域の資源やコミュニティの継承・発展

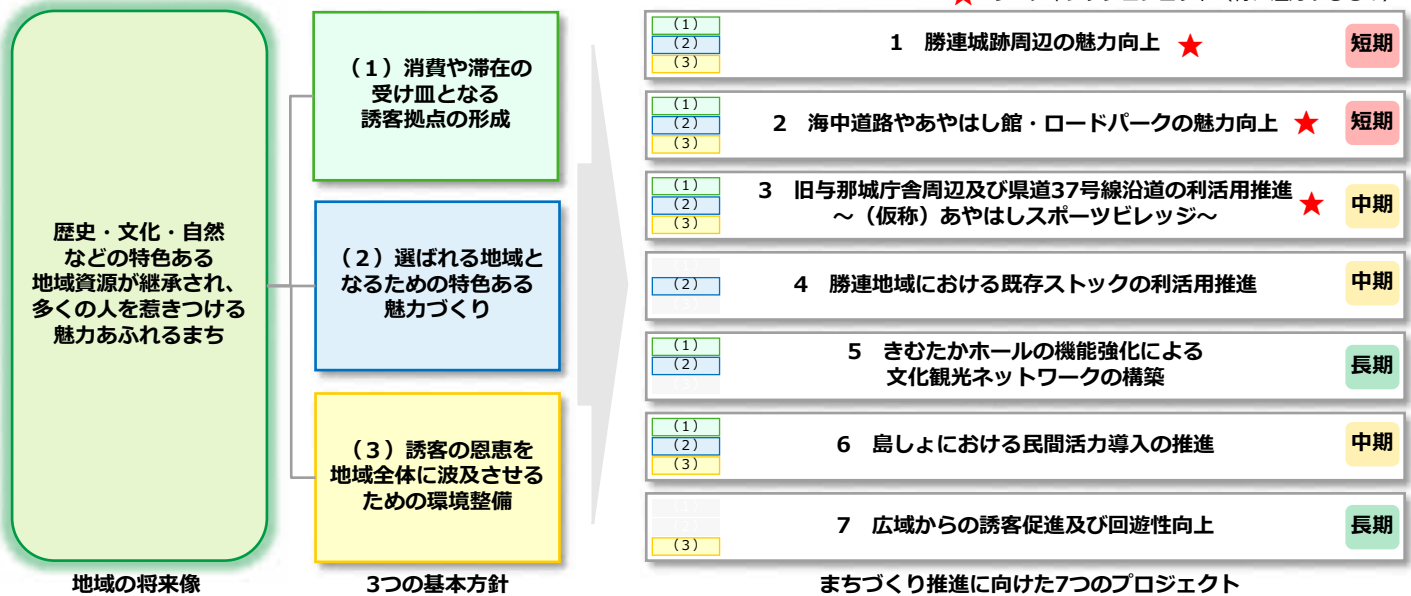
勝連・与那城地域では人口減少や少子高齢化が進んでおり、特に島しょ部において顕著です。これらが今後更に進むと、特色ある自然、歴史、文化や地域のつながりの継承・発展における危機となります。観光・産業の振興や企業誘致、生活環境の充実等により、定住・関係人口の増加、地域外への人口流出の抑制等に取り組む必要があります。

勝連・与那城地域の目指す姿

本計画では「地域の将来像－基本方針－まちづくり推進に向けたプロジェクト」の形でまちづくりの施策体系を整理し、勝連・与那城地域の目指す姿やその実現のための方策を分かりやすく内外に発信します。

まちづくり推進の施策体系

★：リーディングプロジェクト（特に注力するもの）



◆ 勝連・与那城地域の将来像

歴史・文化・自然などの特色ある地域資源が継承され、多くの人を惹きつける魅力あふれるまち

人口減少や少子高齢化といった課題に打ち勝つとともに、那覇市や西海岸のリゾートエリア等の魅力ある地域に近接する中で、多くの人に注目され、選ばれる地域となるためには、歴史・文化・自然といった勝連・与那城地域ならではの地域資源を最大限に活用し、観光を基軸としたまちづくりを進めていく必要があります。

特色ある地域資源の磨き上げを図り、多くの人を惹きつける魅力あふれる地域を形成するとともに、来訪者の長時間の滞在や活発な消費を促す仕組みを構築し、地域の経済活性化につなげます。それらの結果、新たな雇用や産業が生まれ、訪れる場所だけでなく働く場所、生活する場所としての魅力向上にもつながり、地域資源の継承・発展の新たな担い手を生み出していくという好循環を創出することを目指したまちづくりを進めます。

◆ 基本方針

(1) 消費や滞在の受け皿となる誘客拠点の形成

- 目的地として多くの人を訪れるだけでなく、来訪者の消費や滞在の受け皿ともなる地域内の誘客の拠点を強化します。
- まずは世界遺産勝連城跡や海中道路における誘客・消費・滞在の機能強化に取り組み、中長期的にはそれらの間や周辺、更には島しょなど地域全体の機能強化に取り組みます。
- 公園の公民連携の取組を継続・強化し、滞在拠点となる魅力的な公園づくりを進めます。

(2) 選ばれる地域となるための特色ある魅力づくり

- 多くの人に選ばれ、訪れてもらえる地域となるため、勝連・与那城地域ならではの歴史・文化や自然環境等を尊重しつつ最大限に活用し、特色ある地域づくりを進めます。
- 世界遺産勝連城跡やきむたかホールを拠点とした現代版組踊「肝高の阿麻和利」の発信、海中道路やその周辺におけるマリンスポーツ・アクティビティ等の拠点化、島しょ部の学校跡地や古民家の利活用等により、他の地域にはない魅力の創出に取り組みます。

(3) 誘客の恩恵を地域全体に波及させるための環境整備

- 誘客の効果を地域全体に行きわたらせ、観光を基軸としたまちづくりを通じ、地域住民の生活環境の充実や人口減少・少子高齢化等への対応にも貢献することを目指します。
- 勝連地域や与那城地域の公共施設及びその周辺の利活用、県道37号線沿道エリアへの飲食・宿泊・物販等の機能の集積、島しょの資源を生かした魅力づくり等に取り組みます。
- 中部東道路や「（仮称）平安名屋慶名線」「（仮称）勝連半島南側道路」の整備、サイクルツーリズムの推進、公共交通の充実等に取り組みます。
- 観光以外では、沖縄振興特別措置法に基づく経済特区である国際物流拠点産業集積地域に指定された平安座地区の工業専用地域における企業誘致等の可能性を検討します。

◆ まちづくり推進に向けた7つのプロジェクト

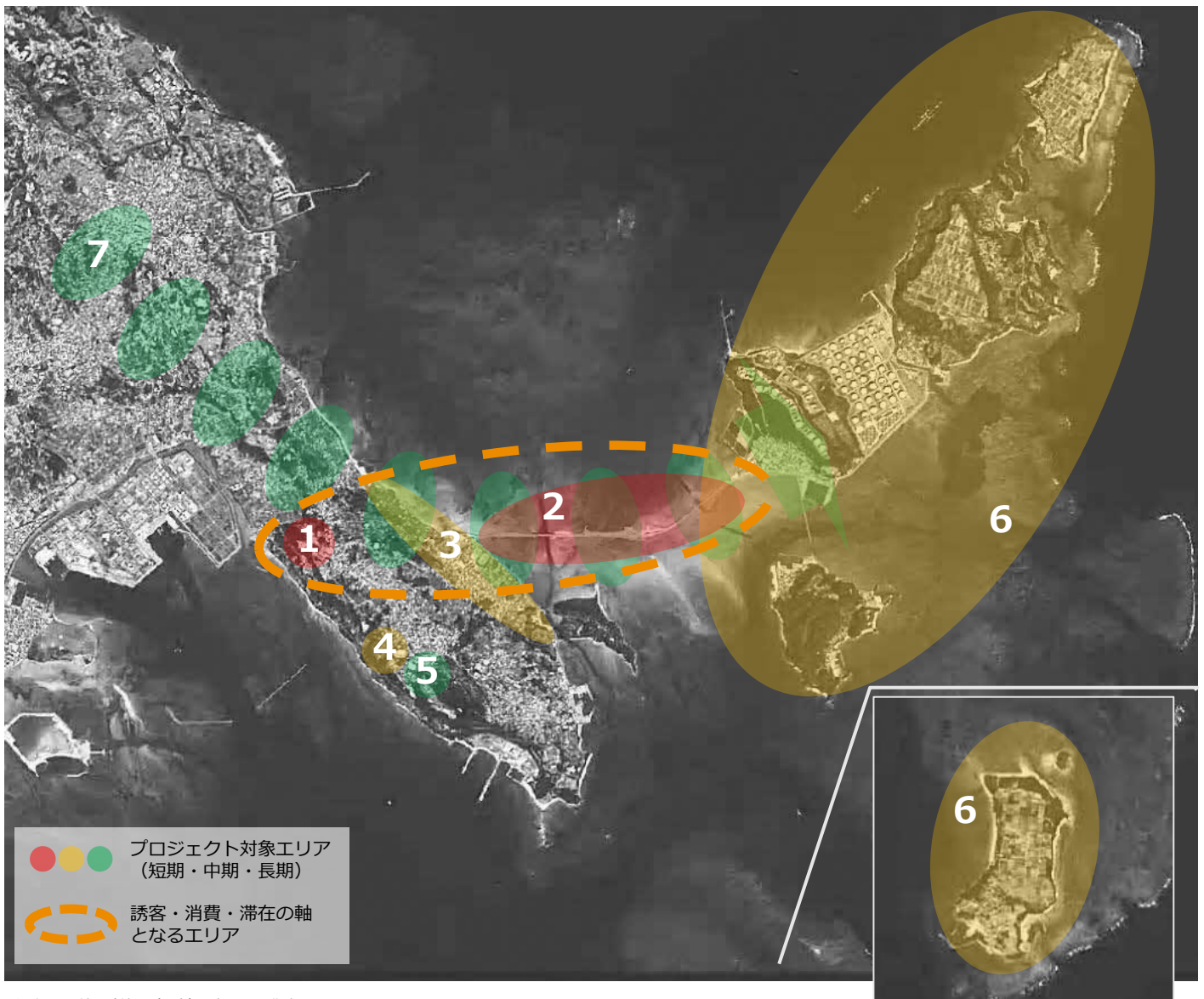
将来像や基本方針を踏まえ、勝連・与那城地域のまちづくりの推進に向けて、市と事業者・団体等が観光を基軸とした公民連携で推進していく主要プロジェクトを7つ設定します。その中でも特に注力するリーディングプロジェクトには、プロジェクト1「勝連城跡周辺の魅力向上」、プロジェクト2「海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上」、プロジェクト3「旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～」を位置づけます。

概ね2030年度までの短期的取組として、プロジェクト1及び2により観光拠点の魅力向上を進めます。また、その間に位置するプロジェクト3のスポーツ合宿誘致やエリア価値向上に向けた取組を着実に進め、勝連城跡から海中道路までを誘客・消費・滞在の軸として確立します。そしてこの軸を起点に、中期及び長期の取組によって地域全体への波及効果を創出し、人口減少や少子高齢化といった地域課題の解消につなげるイメージでまちづくりを推進します。

プロジェクトの一覧と位置関係

★：リーディングプロジェクト（特に注力するもの）

No.	プロジェクト名	取組期間
1	勝連城跡周辺の魅力向上 ★	短期（概ね2030年度までの完了を目指す）
2	海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上 ★	短期（概ね2030年度までの完了を目指す）
3	旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～ ★	中期（概ね2035年度までの完了を目指す）
4	勝連地域における既存ストックの利活用推進	中期（概ね2035年度までの完了を目指す）
5	きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築	長期（2036年度以降の完了を目指す）
6	島しょにおける民間活力導入の推進	中期（概ね2035年度までの完了を目指す）
7	広域からの誘客促進及び回遊性向上	長期（2036年度以降の完了を目指す）



出所：国土地理院地図（写真）を加工して作成

取組期間	短期 (概ね2030年度までの完了を目指す)
市の担当課	プロジェクト推進2課、観光イベント課



勝連城跡周辺整備事業 イメージ図

◆ 背景及び課題

世界遺産勝連城跡は多くの観光客で賑わう地域の主要な観光スポットですが、周辺に消費や滞在につながるような機能がないため、せっかくの来訪を十分な経済効果につなげられていないという課題があります。本市は勝連城跡の隣接エリアに、出土品や市の歴史・文化の展示、肝高の阿麻和利の物語を伝えるライブパフォーマンスなどを楽しめる歴史文化施設を整備し、令和3年に「あまわりパーク」を開業しましたが、今後も更なる機能の集積を図っていくことが求められています。

◆ プロジェクトの方向性

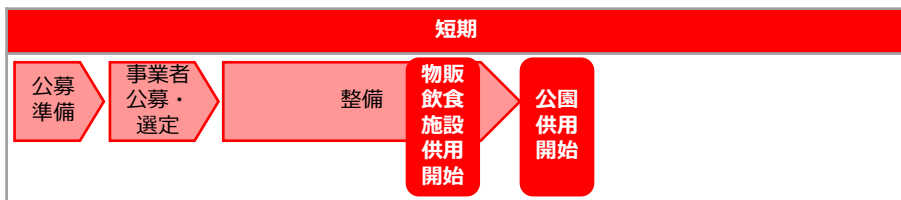
民間活力を導入し、勝連城跡の隣接エリアに公園を整備するとともに、物販・飲食施設の整備運営及び勝連城跡や既存施設等の運営を行う「勝連城跡周辺整備事業」の実施に向け、令和5年度内の事業者公募を想定して準備を進めます。

また、複数の事業者から、ライトアップの実施や視界を遮る樹木の伐採等の勝連城跡の魅力的な見せ方に関する意見が出ています。勝連城跡の史跡指定区域（世界遺産として登録されている範囲）は民間事業者と市の協議により対応を検討すべき事項となるため、市の対応について検討します。

◆ 公民連携の方針

民間事業者の資金やノウハウを活用して魅力的な拠点を効果的に形成するため、PFI手法を採用して事業を実施します。実施にあたっては、市が求める事業内容のほか、民間事業者の提案により自主事業として実施する収益施設の整備運営を含め、民間事業者の積極的な創意工夫や提案により、消費・滞在の拠点としての一層の魅力向上を期待します。

◆ 想定スケジュール



2023 (令和5) 年度

2030 (令和12) 年度

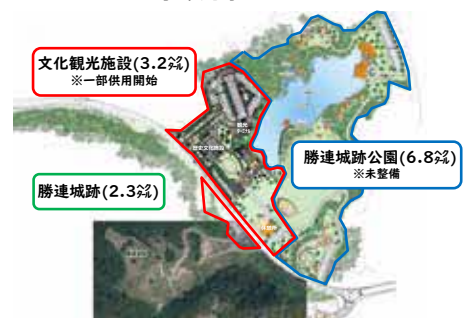
世界遺産勝連城跡



文化観光施設及び勝連城跡公園イメージ図



事業対象エリア



プロジェクト
2

海中道路やあやはし館・
ロードパークの魅力向上

★リーディング

取組期間	短期 (概ね2030年度までの完了を目指す)
市の担当課	観光イベント課、スポーツ課



◆ 背景及び課題

海中道路は勝連・与那城地域の主要な観光スポットとして多くの観光客で賑わうほか、市民・県民のドライブスポットとしても愛されています。また、周辺ではマリンスポーツ・アクティビティを楽しむ人も多く訪れています。

海中道路の中央には「海の駅あやはし館」があり、来訪者の休憩や消費・滞在の場として利用されています。また、あやはし館に隣接して整備された300台収容の駐車場「ロードパーク」も立地しています。

このようなユニークなロケーションから大きなポテンシャルを有する施設・エリアですが、開業後約20年が経過するあやはし館の機能の陳腐化や、施設の管理運営面における諸問題、ロードパークの有効活用といった様々な課題があり、ポテンシャルが十分に発揮されているとは言い難い状況です。

◆ プロジェクトの方向性

ロードパークは現状、沖縄県が所有・管理しており、うるま市主導による柔軟な利活用が難しい状況にあります。しかし近年、関係者の間でうるま市の権限の拡大や施設の位置づけの見直しに向けた機運が高まってきています。こうした機をとらえ、うるま市は令和4年度に「ロードパーク活性化基本計画」の策定に取り組んでいます。同計画の検討の中で、ロードパークやあやはし館の今後のあり方や目指す方向性について取りまとめ、魅力向上に向けた取組につなげていくことを予定しています。

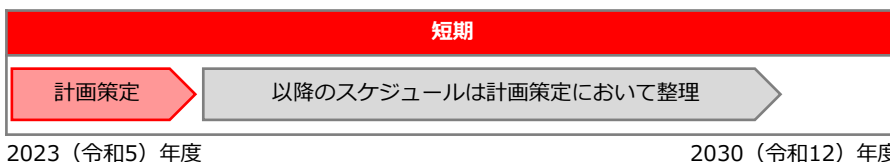
◆ 公民連携の方針

観光誘客や消費・滞在の拠点としてのポテンシャルは大きく、民間事業者の資金やノウハウを活用した魅力向上の余地も大きいと想定されます。実際にサウンディング調査でも多くの事業者が関心を示しています。

こうした状況を踏まえると、公民連携事業による魅力向上を見据え、初期段階から事業者との対話を積極的に行い、市場性や実現可能性を確認しながら検討を進めていくことが重要と考えられます。

なお、具体的な方針については、現在策定中の「ロードパーク活性化基本計画」において整理する予定です。

◆ 想定スケジュール



海中道路



海の駅あやはし館



ロードパーク (道路右側)



写真(上から1枚目、4枚目) 出所：
うるま市 (一般社団法人 うるま市観光物産協会 公式WEB
サイト)

プロジェクト

3

旧与那城庁舎周辺 及び県道37号線沿道の利活用推進

★リーディング

～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～

取組期間

中期
（概ね2035年度までの完了を目指す）

市の担当課

プロジェクト推進2課、
観光イベント課、スポーツ課



旧与那城庁舎周辺利活用 イメージ図

◆ 背景及び課題

旧与那城庁舎は、旧与那城町の役場庁舎として使われていた施設です。海中道路の入口に位置し、周辺には与那城総合公園内のスポーツ施設（陸上競技場、多目的広場、庭球場、多種目球技場等）が集積しています。

勝連・与那城地域の主要観光スポットである世界遺産勝連城跡と海中道路をつなぐ位置にあることから宿泊施設としての利活用が期待されていますが、未だ取組の方向性が明確になっているとは言い難い状況です。

また、県道37号線を北西に進むと東照間商業等施設（TERUMA）がありますが、その間（2km弱）に店舗等はほとんどなく、海岸側は樹木が生い茂り景観を阻害しているほか、道路の老朽化や旧与那城庁舎前の海中道路入口海域における自然環境の悪化といった課題があります。

◆ プロジェクトの方向性

市内で計画されている「（仮称）うるま市総合アリーナ」の整備に伴い、市内の陸上競技場機能を与那城総合公園陸上競技場に集約化し、あわせて全天候型トラックに改修することを検討しています。これらを踏まえ、旧与那城庁舎周辺は、サッカー、陸上競技等を中心としたスポーツ合宿・キャンプの受入拠点としての利活用を推進するとともに、マリンスポーツ・アクティビティやサイクリング等に関連する機能の導入もあわせて検討します。

県道37号線沿道では、海岸の視界を遮る樹木の伐採、道路の老朽化対策、海中道路入口海域における環境改善等の取組を進め、小規模な飲食・物販施設や宿泊施設等の集積とあわせて、魅力あるエリアの形成を促進します。

◆ 公民連携の方針

全天候型トラックへの改修を想定している陸上競技場を核としたスポーツ合宿・キャンプ等の誘致を推進します。旧与那城庁舎については、一部を改修して宿泊施設として利活用すること等を含め、今後詳細な検討を進めます。

県道37号線沿道における取組も含め、これらの事業推進にあたっては民間活力の導入が必須と考えられるため、検討の初期段階から対話を積極的に行い、民間事業者の意見や市場性を検討内容に反映するよう努めます。

なお、エリア一帯の魅力向上を図るためには、市や事業者、住民、関係団体等の連携によるエリアマネジメントの取組も不可欠と考えられるため、仕組みや財源等についてあわせて検討します。

与那城総合公園陸上競技場



旧与那城庁舎



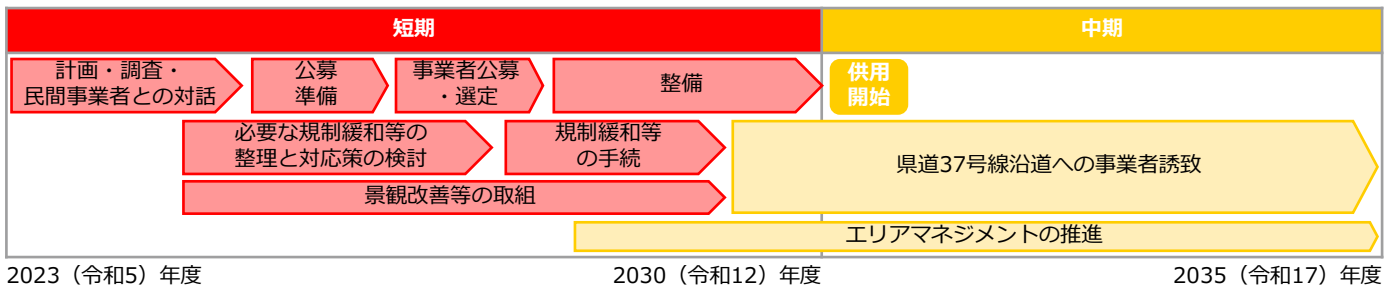
旧与那城庁舎周辺と県道37号線沿道の位置関係





県道37号線沿道利活用 イメージ図

◆ 想定スケジュール



プロジェクト 4 勝連地域における
既存ストックの利活用推進

取組期間	中期 (概ね2035年度までの完了を目指す)
市の担当課	都市政策課、公園整備課

◆ 背景及び課題

うるま市は2市2町の合併で誕生した経緯から、同種・類似のスポーツ施設の重複が生じています。「うるま市公共施設等マネジメント計画」では、勝連地域に立地する勝連総合グラウンドは「維持（老朽化した付属施設の処分）」、勝連B&G海洋センターは「処分」の方向性が示されています。

しかし、周辺の自然環境が豊かであり、周辺の住宅等が視界に入りにくいこと等から、スポーツやアウトドア等での利活用の可能性を秘めていると考えられます。更には、「肝高の阿麻和利」の拠点であるきむたかホールに近接する立地を生かした連携も期待されています。

勝連総合グラウンド



勝連B&G海洋センター



写真(上) 出所：うるま市立体育施設HP

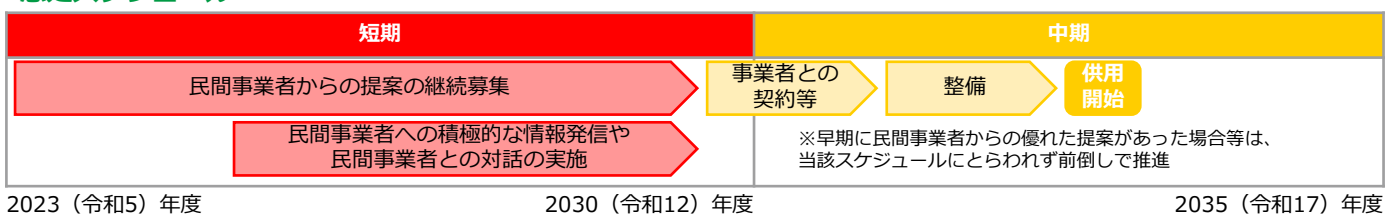
◆ プロジェクトの方向性

既存計画で示された方向性に基づき見込まれる以上の市の財政負担が生じないことを原則とし、民間事業者主導での利活用の可能性を検討します。

◆ 公民連携の方針

今後数年間で民間事業者に対する情報発信や対話を積極的に実施し、民間事業者のニーズの把握を図ります。その結果、利活用の可能性が把握された場合には、公民連携による事業実施に向けた具体的な検討を進めます。

◆ 想定スケジュール



プロジェクト 5 きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築

取組期間	長期 (2036年度以降の完了を目指す)
市の担当課	生涯学習文化振興センター

◆ 背景及び課題

きむたかホールは主に現代版組踊「肝高の阿麻和利」の活動拠点として利用される本格的な設備の整ったホールであり、令和2年度に音響設備・舞台照明設備の強化や、誘客強化を図るための駐車場（94台）の整備を実施しました。しかし、集客や施設運営等に課題があるほか、県道から駐車場までのアクセス道路が狭く、歩道も十分に整備されていないなどのアクセス面での課題もあり、施設の有効活用を実現するための検討が求められています。

◆ プロジェクトの方向性

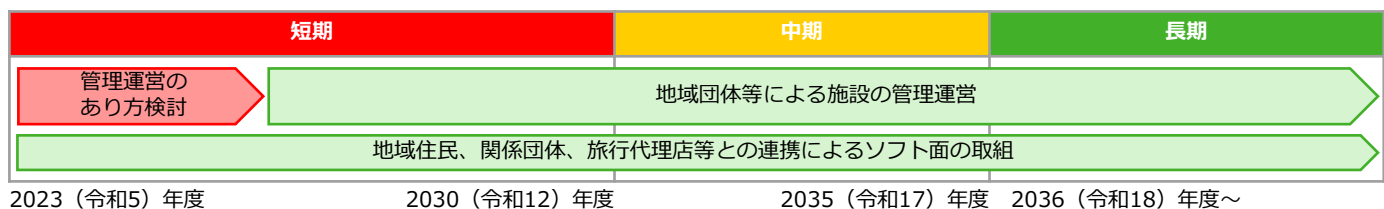
きむたかホールの誘客拠点化、世界遺産勝連城跡に隣接するあまわりパーク歴史文化施設との連携、肝高の阿麻和利の観光コンテンツとしての更なる強化等を基本的な方向性とします。

◆ 公民連携の方針

きむたかホールは現在、市の直営となっていますが、肝高の阿麻和利を主宰する地域団体等による管理運営体制への移行を検討し、ハードとソフトが一体となった魅力発信や施設の有効活用の実現を目指します。

一方、地域団体等には人的・資金的な制約があるため、旅行代理店をはじめとする民間事業者との連携等のソフト面での公民連携を推進します。

◆ 想定スケジュール



きむたかホール外観



きむたかホール内部



プロジェクト 6 島しょにおける民間活力導入の推進

取組期間	中期 (概ね2035年度までの完了を目指す)
市の担当課	企画政策課、プロジェクト推進1課

◆ 背景及び課題

勝連・与那城地域には、海中道路等の橋によってつながり車でアクセス可能な平安座島、浜比嘉島、宮城島、伊計島の4島と、フェリーによって30分程度でアクセス可能な津堅島があります。それぞれの島は歴史、文化、景観、産業等に特色を持ち、勝連・与那城地域の貴重な地域資源となっています。

一方、これらの島しょ地域では人口減少や少子高齢化の進行が顕著であり、学校跡地や空き家となっている古民家等、有効活用が期待されるアセットも生じていることから、地域振興に資する利活用を推進する必要があります。

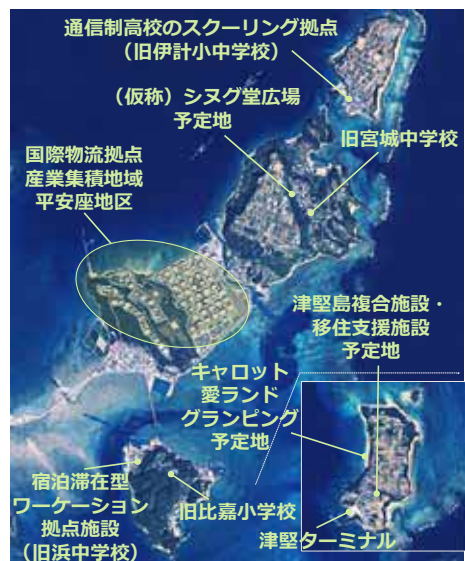
◆ プロジェクトの方向性

学校跡地や古民家等を地域資源としてとらえ、観光誘客や地域コミュニティの形成といった地域振興に資する利活用を推進します。

このほか、沖縄県が進めている県道10号線（伊計平良川線）の整備に合わせた「(仮称)シヌグ堂広場」の整備、沖縄振興特別措置法に基づく経済特区である国際物流拠点産業集積地域に指定された平安座地区の工業専用地域における利活用の推進に向けた企業誘致等の可能性検討、津堅島の暮らしの向上や移住・定住の促進を目的とした「津堅島複合施設・移住支援施設」の整備、平敷屋旅客待合所のユニバーサルデザイン化等の整備や津堅ターミナルでの情報発信等の休憩施設の充実に向けた取組による航路の利便性向上等、様々な角度から島しょの地域振興を図ります。

また、関係団体等へのヒアリングでは高級リゾート開発のポテンシャルに関する意見が挙がっていることから、島しょ地域の交通インフラや生活環境、自然、文化等への最大限の配慮を前提として、中長期的に可能性を探っていきます。

島しょの主な地域資源の位置関係



出所：国土地理院地図（写真）を加工して作成

◆ 公民連携の方針

地域振興に資する地域資源の利活用の実績としては、浜比嘉島における旧浜中学校をリノベーションした宿泊滞在型のワーケーション拠点施設としての利活用、伊計島における旧伊計小中学校をリノベーションした通信制高校のスクーリング拠点としての利活用等が挙げられ、いずれも公民連携または民間事業者主導による利活用が実現されています。また、津堅島の都市公園（キャロット愛ランド）では、都市公園法に基づく設置管理許可制度を活用した民間事業者によるグランピング施設の整備運営が計画されています。こうした実績や取組も踏まえ、今後の地域資源の利活用においても、公民連携事業による事業実施や民間事業者主導の利活用を想定し、民間事業者に対する情報発信や民間事業者との対話を積極的に実施します。

直近で利活用が期待される地域資源としては、宮城島のほぼ中央部に位置する旧宮城中学校跡地や、浜比嘉島の中央よりやや北東に位置する旧比嘉小学校跡地が挙げられるため、当該跡地に関する利活用を推進します。

また、古民家の利活用については、利活用を検討する民間事業者への情報提供を可能とするため、空き家の発生状況等の現況把握を進めます。なお、うるま市ではこれまでも、島しょへの移住・定住の促進を目的に、活用可能な空き家の掘り起こし、空き家の所有者向けのサポート、改修に対する補助等に取り組んでいます。今後はこれらの取組を通じて得たノウハウや情報を生かし、民間事業者向けのサポートやマッチング等についても検討します。

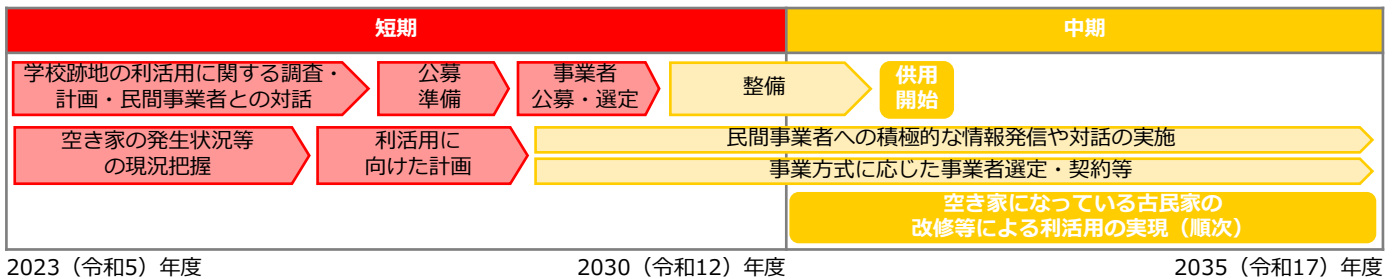
旧宮城中学校跡地（宮城島）



旧比嘉小学校跡地（浜比嘉島）



◆ 想定スケジュール



プロジェクト

7

広域からの誘客促進及び回遊性向上

取組期間	長期 (2036年度以降の完了を目指す)
市の担当課	都市政策課、観光イベント課

◆ 背景及び課題

勝連・与那城地域は沖縄自動車道ICから一定の距離があり、西海岸エリアに比べ一般道でのアクセスルートが分かりにくいこと等から、道路インフラの整備が課題となっています。また、点在する地域資源の間をつなぎ、地域全体に誘客の効果を波及させるための回遊性向上を図る必要があります。

◆ プロジェクトの方向性

沖縄自動車道等と接続する高規格道路「中部東道路」の整備実現により、広域からの誘客促進にも大きく寄与することが見込まれるため、引き続き関係機関との連携や調整を進め、早期実現に向けて取り組みます。

また、「うるま市自転車ネットワーク計画（東部地域）」に基づく観光の移動手段としての自転車利用の推進、中城湾港新港地区へのクルーズ船の寄港を勝連・与那城地域への誘客・周遊促進につなげる取組等を進めます。

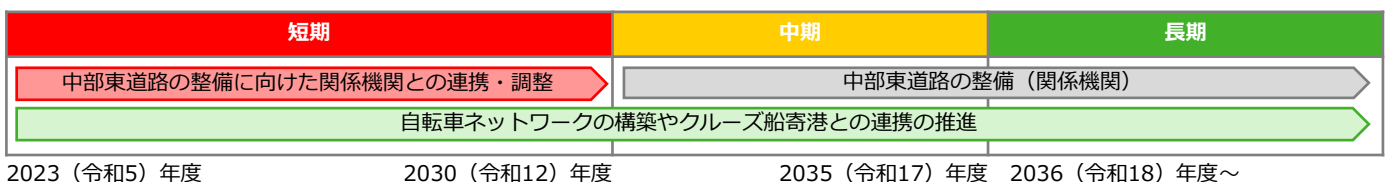
中部東道路のイメージ図



◆ 公民連携の方針

本プロジェクトは行政主導での推進が基本となりますが、中部東道路の整備をはじめとするインフラ整備は、民間事業者の地域への投資や事業参画に大きく影響すると考えられるため、取組状況等について定期的に共有する等の連携を図ります。自転車の観光利用の推進や中城湾港新港地区へのクルーズ船の寄港と連携した取組も同様です。

◆ 想定スケジュール





うるま市 企画部 プロジェクト推進2課

〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号 TEL:098-923-7606 FAX:098-979-7340